



Weekly Market Report

FX, JPY Interest Rate, Topics

Oct 5, 2026

1. 為替相場概況

先週は日米要人発言に振られる展開に。今週は米利上げ観測を左右する経済指標に要注目。

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

先週のドル円相場は、日米要人発言等により行ってきた展開となった。週初は、東京時間に一時157円80銭台まで上昇したものの、欧州時間に三村財務官が「日米首脳・財務相間の議論を踏まえしっかり対応する」などと述べたと伝わり、一時156円台半ばまで円高が進行。その後157円台を回復したものの、ウィリアムズ米国NY連銀総裁が追加利上げを急がない姿勢を示し、米連続利上げ観測が後退したことで、週央には再び円高が進行、一時156円30銭台をつける場面もあった。一方で、10月1日（木）公表の9月日銀会合「主な意見」の中で、政府側出席者から日銀の追加利上げをけん制する意見があったことが明らかになり、ドル円は一時158円40銭まで大幅に円安が進行。その後2日（金）公表の米雇用統計が、早期利上げ観測を後退させる結果となったことを受け、一時157円割れとなったもののドル売りは続かず、157円台半ばで越週。今週も引き続き、10月の日米利上げ観測を左右する要人発言や経済指標に注目したい。（市場営業部/亀城）

今週の経済指標（予定）

日付	イベント	予想
10/5(月)	(米国) 非製造業PMI・確報値	58.7
10/5(月)	(米国) ISM非製造業景況指数	55.0
10/6(火)	(米国) 8月貿易収支	-1,020 億ドル
10/8(木)	(米国) 9月FOMC議事録	-
10/8(木)	(米国) 新規失業保険申請件数	20.0万 件

USD/JPY (5年間)



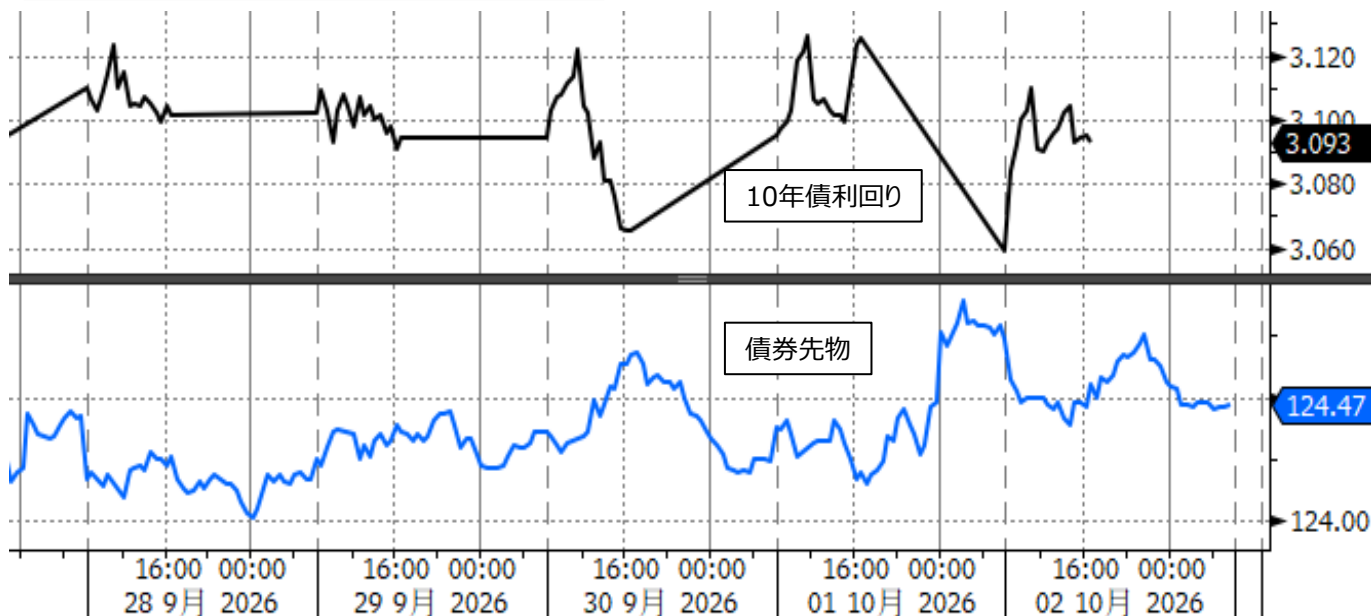
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
山口愛	156.00 – 159.00	米ISM非製造業景況指数・植田総裁発言・FOMC議事要旨に注目。米雇用統計を受けドル円は上値重いと予想。
森本泉貴	155.00 – 158.50	今週は雇用統計の結果を受けて上値が重い展開か。週央に発表されるFOMC議事要旨に注目。

2. 円金利相場概況

国内金利は高値圏でのみ合い、雇用統計の下振れを受けた海外金利動向に注目

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）

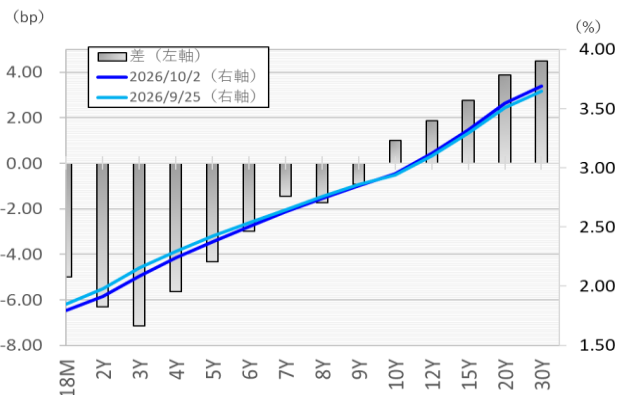


G1GB10 Index (日本国債10年単利) IGB.F 30 日 30 分 Copyright© 2026 Bloomberg Finance L.P. 05-Oct-2026 07:58:17 (出所) Bloomberg

コメント

先週の10年国債金利は高値圏でのみ合いとなった。週初は中東情勢の先行きが不透明なことや、10月FOMCで追加利上げに動く見方が根強く、金利上昇。その後は40年債入札は応札倍率が3.10倍と2020年7月以来の高さとなり、強めの結果と受け止められたことで金利低下。週央には、2年債入札が無難な結果と受け止められたことで債券市場は強含み、10年国債利回りは3.06%台まで低下。木曜には原油高に伴うインフレ懸念が根強く米長期金利の上昇に伴い、一時3.12%台まで金利上昇するも、日銀の9月金融政策決定会合「主な意見」が、一段の利上げ加速を示唆する内容ではなかったとして、上昇は一服。週末には米金利低下を背景に買いが先行した後は、晩の米雇用統計を見極めたいとの見方から徐々に様子見姿勢が広がり、3.093%で越週した。今週は、国内金利は3%台での推移が続く中、レンジ相場となるか、再び上値を試す展開となるかが焦点となるだろう。(市場営業部/堀)

金利スワップ変化（1週間）



10年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
加藤里奈	3.00% - 3.15%	米利上げ観測が後退したことを受けて、円金利は上値の重い展開を予想。今週は10年債・30年債入札に注目。
小野口裕美子	3.00% - 3.20%	世界的な金利上昇の流れで円金利も上昇継続しそう。中東情勢に伴う原油価格・米金利動向次第ではチョッピーな展開も。

3. 今週のトピックス

年初来の主要通貨対ドルパフォーマンス

足元ではFRBの利上げ期待の高まりでドル買いが進む中、年初来では豪ドルのアウトパフォーマンスが継続

<年初来主要通貨対ドルパフォーマンス>

2026年1-9月期の主要通貨対ドルパフォーマンスは、豪ドルが+4.1%、日本円-0.4%、英ポンド-1.6%、ユーロ-3.5%と、引き続き豪ドルがアウトパフォーマンスしているものの、FRBの利上げ期待を受けてドル買い圧力が強まる展開となっている【図表1】。豪ドルは、オーストラリア準備銀行が今年に入ってから4回の利上げを実施して政策金利を4.60%と相対的に高い水準に維持していることや、資源価格の上昇がオーストラリア景気の後押しになるとの見方が豪ドル買いの背景とみられる。

ユーロについては、ECBがここまで2回の利上げを行ったものの、預金ファシリティ金利は2.5%と比較的低水準にとどまっているほか、ラガルド総裁が追加利上げに慎重なスタンスを示していることがユーロ相場の重石となっている。また、ドイツの州議会選挙で極右政党「ドイツのための選択」が躍進して政治的な不透明感が高まっていることや、フランスにおける財政悪化リスクの強まりもユーロの売り材料といえそうだ。

英ポンドについては、イングランド銀行がいまだ利上げを実施せず、政策金利を3.75%に据え置いていることに加え、バーナム新首相による財政支出の拡大懸念が英ポンドの上値を抑制している。日本円については、日米首脳が円安是正に向けた強い姿勢を示していることが、円相場の下支えにつながっている。

<シカゴIMM投機筋ポジション>

シカゴIMM投機筋ポジションについては、円ポジションの変動がかなり大きくなっている。7月に16万枚まで積み上がっていた円のネットショートは、9/29時点では5万枚程度の円ロングに転換しており、過度に積み上がっていた円キャリーポジションはいったん巻き戻されたといえそうだ【図表2】。

ネットロングとなっていたユーロや豪ドルの投機筋ポジションは緩やかな縮小傾向となり、現在は6万枚程度の売り超過の状況。英ポンドは9万枚程度のネットショートと投機筋の買い意欲はかなり弱くなっている。

<年内のドル円相場見通し>

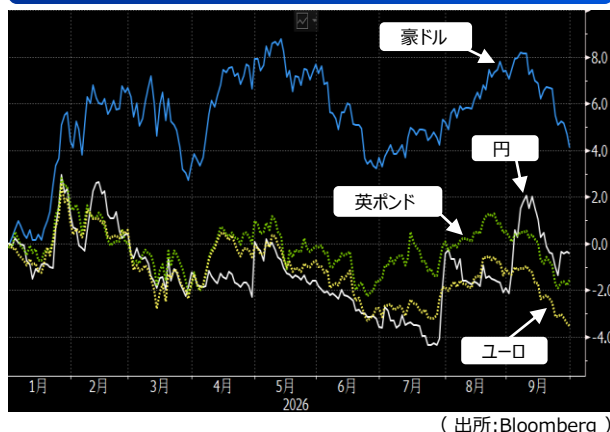
年内のドル円相場レンジは152-162円、年末水準は155円程度を想定している。

日本の貿易赤字やデジタル赤字の拡大、新NISAによる海外投資の増加といった構造的な円安材料に加えて、日米金利差の拡大を見据えた円キャリー取引の継続がドル円相場の下支え材料となってくるが、日米で協調した為替介入への警戒感や、日銀の利上げペース加速への期待、またGPIFの資産アロケーション変更の思惑などがドル円の上値を抑制するとみられる。

当面のドル円相場はレンジ推移が見込まれるが、一目均衡表においては、強いドル円の売りシグナルとなる「三役逆転」には至っていないものの、10月半ばに雲の上限となる158円台半ばが今後レジスタンスとして機能してきそうだ【図表3】。

(チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我 晃)

【図表1】年初来主要通貨対ドルパフォーマンス(%)



【図表2】シカゴIMM投機筋ネットポジション(枚)



【図表3】ドル円一目均衡表



ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会